

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成25年8月26日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 情報学研究科

職 名・学 年 修士課程2年

氏 名 呉 妍 菲

助成の種類	平成25年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成	
研究集会名	第11回国際哺乳類学会	
発表題目	西日本の海岸砂丘における哺乳類の時空間利用	
開催場所	英国北アイルランド・ベルファスト・クイーンズ大学ベルファスト校	
渡航期間	平成25年08月10日 ～ 平成25年08月24日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円
	使用した助成金額	200,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	航空賃(空港使用料・税金込)： 200,000円 ----- ----- ----- -----
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回は貴財団の国際研究集会発表助成金をいただいて、第11回国際哺乳類学会でポスター発表することができて、誠にありがとうございます。渡航前に助成金を振り込んで頂いたお陰で、経済的に困らぬにイギリスに行くことができました。とても助かりました。	

## 成果の概要

情報学研究科・社会情報学専攻  
修士2年・呉 妍菲

今回参加した第11回国際哺乳類学会(The 11th International Mammalogical Congress 2013)は4年に一度に開催された世界最大規模の哺乳類研究者集会でした。24年ぶりにヨーロッパで開催され、哺乳類の生態、遺伝子、管理、保護など、幅広い分野に於いて研究を行なっている各国の研究者は千人以上集まりました。そのうち、生態学分野で世界中でも有名な専門家たちは公開講演会を行なって、普段聞けない演説を伺うことができました。自分の研究には直接に役立つとはいえないですが、どうやって異なるスケールでエコシステムを考えたり、動物の活動を理解したりする方法を学びました。

また、私にとって今回の学会は初めての国際学会なので、緊張しながら、できるだけ自分の研究内容と成果をみなさんに説明するようにしていました。自分と似ている研究をしている人はあまりいないと思っていましたが、数人の欧米人研究者は興味津々に私の説明を聞いてくれて、議論もしていました。そのうちの1人は遺伝子解析によって、種判別まで進めると薦めてくれて、関連研究機関の連絡先なども教えてくれました。各国の研究者と話し合った間に、普段なかなか思い付かない手法や考え方を知るチャンスとなりました。

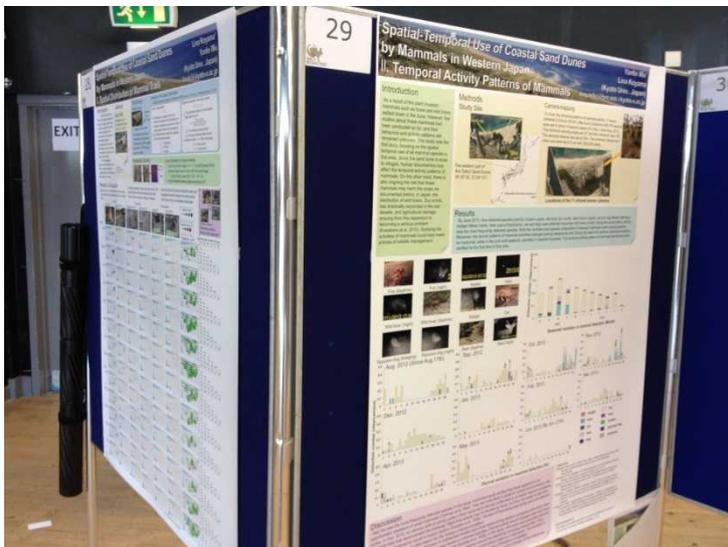


図1. 今回発表で使っていたポスター

それに、自分の発表以外にも、いろいろな分野で活躍している研究者の発表を聞くことは大変勉強になりました。時間は重なっていた場合もありましたので、今回私も主に自分の研究内容と関係があるシンポジウムやワークショップに参加しました。たとえば、「野生哺乳類と人間社会」、「哺乳類の行動パターンや行動圏」などが挙げられます。また、普段あまり聞くチャンスのないお話が聞けることは国際学会のメリットの一つだと思います。特に印象に残ったのは、ある研究者による「照明汚染」というテーマの発表でした。日常生活に欠けない照明は一定規模を超えると、野生動物に大きなインパクトを与えることもあります。とくに夜行性のコ

ウモリにとっては、致命的と言っても過言ではありません。

そして、あるアメリカ人の研究者のプレゼンテーションを聞いたところ、動物調査をする際に用いた手法は自分の研究で使っている手法とほぼ同じでした。赤外線センサーカメラのメーカーと品番まで同じなので、どんな成果が上げられたのかすごく興味をもつようになりました。その研究者の調査地は雨林で、私の調査地である砂丘とは当然異なりますが、動物画像を撮影する際に現れた問題は似ていました。発表の後、その研究者とお話して、お互いの問題について議論していました。自分の研究分野における先行文献は読んでいましたが、今回の学会に参加しなければ、まさに自分と似ていることをして、似ている問題を抱えている研究者がいることが知らなかったのでしょう。4年に一度の国際会議で、レベルの高い研究者と出会い、貴重なお話を聞かせて本当によかったと思います。

数日間の学会では、たくさんの学者は数多くのプレゼンテーションをしてくれましたが、時間の原因でほんの一部しか聞けませんでした。大型のライオンから、イルカの体に寄生している生物まで、さまざまな研究対象に驚きました。各国の研究者たちは調査地の気候条件、海拔などにかかわらず、一生懸命調査をして、データを入手していることに感心しました。そしてもう一度自然の多様性と美しさを実感しました。とても面白い発表が多かったです。学術的な勉強だけでなく、プレゼンテーションの仕方の勉強にもなりました。スライドへの工夫や話し方、ロジカルに論述する方法など、いろいろな良いケースを見ました。自分の不足を痛感しながら、帰ってきたら研究も発表への工夫も頑張らないといけないと思いました。

学会委員会のご案内にしたがって、クイーンズ大学の植物園にも訪ねました。こんなに広い植物園を所有している大学は少ないですから、とてもいい経験となりました。ベルファストはまだ寒かったですが、ビニールハウスの中で育てられている熱帯植物を観ることができて、楽しかったです。



図 2. と図 3. 植物園の中の熱帯植物

また、珍しいバラが咲き誇っていたバラ園もありました。生態学者にとって、珍しい植物を鑑賞できることは非常に楽しいでしょう。

植物園以外は、すぐ隣にあるアルスター博物館にも見学に行きました。アイルランドの哺乳類や鳥から、歴史や文化、マミーまで、さまざまな展覧物を満喫しました。中国南部出身の私

にとって、寒い地域でしか生息しない動物を見られたことは嬉しかったです。



図4. と図5. アイルランドならではの哺乳類標本

今回は京大財団から助成金をいただいたお陰で、国際哺乳類学会で発表することができて、世界中の研究者と学術交流を行うこともできました。ほんの一部でしたが、日本哺乳類研究の状況を海外研究者に説明しました。また、いろいろな方々から勉強ができて、自分の不足を痛感していたので、今後の研究に励みたいと思います。ありがとうございます。